

大樹の礎

Taiju no Ishizue

第9号 2011 7.1

発行者：学校法人 城西医療学園
日本医療科学大学

〒350-0435
埼玉県入間郡毛呂山町下川原 1276
Tel：049-294-9000
URL：http://www.nims.ac.jp

平成二十三年 入学式 挙行

四月十七日(日)、川越グリーンホテルにおいて、平成二十三年度日本医療科学大学入学式が挙行されました。

大震災の影響により中止も検討されましたが、内外の強い要望があり、二週間延期しての実施となりました。

本年度の入学式は、診療放射線学科九十九名、リハビリテーション学科理学療法専攻四十九名、リハビリテーション学科作業療法専攻四十四名の計二百四十二名で、一人一人の入学認証の後、本年度新たに学長に就任した金子勝治学長の式辞(別掲)、新藤宣夫理事長の挨拶があり、最後に新入生を代表して理学療法専攻の比留間亜衣さんが宣誓を行いました。



真のプロフェッショナルを目指せ！ 学長 金子 勝治(抜粋)



知識・経験を公に授けるという意味合いが込められています。言い換えれば、プロフェッショナルとは、高い倫理観と深い専門的知識を持ち、身につけた能力や技術を社会に役立て、人々の幸福のために奉仕することを誓い、全生懸にわたってこれを実行する責務を負った人々を意味します。

新入生の皆さんはこうしたプロフェッショナルを目指して必要な専門的知識を身につけるために学生生活を始めるわけですが、業をしたり、遊びながら遊級したり卒業したりできるものではないことを肝に銘じて下さい。

しかしながら、大学での勉強の方法、コツがわかれば日常生活の中に自然に溶け込んでくるものです。

最後に、大学四年間はある意味長く、ある意味では非常に短いものでもあります。新入生の皆さん自身が健康維持に関して十分留意すること、そのためのサポートを御家族の皆様にお願ひして学長としての式辞と致します。

「通常「プロ」という言葉はその道の専門家といった意味合いで使われていますが、私の申し上げている「プロフェッショナル」には、神と契約して己の専門的

「通常「プロ」という言葉はその道の専門家といった意味合いで使われていますが、私の申し上げている「プロフェッショナル」には、神と契約して己の専門的

連続エッセー⑧

日本人と放射線(原発事故について思う)

3月11日の東日本大震災は未曾有の大惨事となりました。震災としての被害は人的、社会的なものを含め計り知れません。被災された方々に心よりのお見舞いを申し上げますと共に力強い復興をお祈りいたしております。

この震災の特徴は原子力施設の事故に伴い震災の影響域を大きく超えた放射能汚染を生じたことにあると思います。日本人にとって放射能は特別な感情があります。広島、長崎の原爆投下による被ばくは日本人の心に消すことのできない重いしこりを残しました。しかし、皮肉なことに終戦後は経済成長と共に原子力発電を重要なエネルギー源とせざるを得ませんでした。この原子力事故により原爆被ばくを思い起こされた方も多いのではないかと思います。また、放射線に対する知見は戦前とは比較になりませんが、戦後世代が大多数を占める現在においては放射線に対する意識も変化しつつあるように感じています。

一方、最近の報道では関東地方を含む広範な地域で原子力発電所より飛来した残留放射能による空間放射線量が心配されており、人々の不安を取り除くために各地で計測が行われるようになりました。しかし、五感に感じず、人体への影響を確率的にしか表現できない放射線の安全を納得してもらうことは容易ではないと思われまます。被ばく線量と影響についての誤解も見られます。人は微量の自然放射線による被ばくに曝されながら無事に生活していることを思い起こす必要が有るかも知れません。

過去の戦争で放射線の恐ろしさを体験し、戦後は医療、工業、研究、日常生活などの多くの分野で放射線の恵みを感じてきた日本人には、放射線との賢い付き合い方が必ず出来るものと信じております。

信頼される大学を目指して

学長・副学長・学部長インタビュー

平成十九年に開学した日本医療科学大学では、三月に第一期生を社会に送り出し、完成年度を終了しました。

四月から、金子勝治前学部長が学長に、新藤博明教授が副学長に、飯田恭子教授が学部長にそれぞれ就任され、新たな日本医療科学大学の発展を目指してスタートを切っています。今回は、この三人の先生にお集まりいただき、新しい段階での大学づくりについてお話しいただきました。



金子学長

(司会) 早速ですが、新たな役職におつきになって、今、どんな大学にしていきたいとお考えですか。

(金子) 単純ですが、この大学に入学してよかったと思ってもらえる大学にしたいと思います。そのためには、国家試験の合格率を高い位置で安定的に維持することが絶対に必要だと考えています。

(新藤) 学長の言われた通り、国家資格は形で見えるものですから、本学の学生には全員合格して欲しいと思います。一方様々な理由はあるのですが、途中で進路変更する学生がいることも事実です。こうした学生に対して細やかな対応のできる大学でありたいと考えています。

(飯田) 細やかな対応という意味では、本学は様々な努力をしていると思います。比較的小規模の良さでしょうか、教員間の人間交流の機会も多いですし、教員と学生の関係も近いです。教員研究室に頻りに訪れる学生も多いですし、廊下の隅などで教員に長々と相談また、質問している風景はほほえましく映っています。今年度は新たにキャンパスサポーターが5名加わり、学生にとっては兄、姉のような存在の新卒職員が学生の「心」の支えをしたいと意気込んでいます。人間的なあなたか学内環境を私自身は大変評価しています。

(司会) 現在の学生の気質についてどう感じていらっしゃいますか。

(金子) 「今の若い者は」という議論はいつの時代もあるようですので、

あまり言いたくはありませんが、諦めの早い学生が多いように感じます。向う見ずな行動はむしろ長所だと考えてもらえるといいのですが。

(新藤) 他大学の学生と比較すると、目的意識の高い学生が多いと思います。とはいえ、人間形成には長い時間が必要です。大学としては在学中だけでなく、就職後もフォローしていく体制を作っていきたいと思っています。



新藤副学長

(司会) 昨年度の国家試験の成績と国家試験の難易度についてどうお考えでしょうか。

(金子) 昨年度の合格率は私自身が考えていたものよりも低いものでした。これにはいくつかの原因があるので、今きちんと点検し、来年に生かすよう準備を整えているところです。

(新藤) 国家試験に合格できるかどうかと同様であれば、本学に入学を許可した以上、必ず合格させるというのが大学としての責任であると考えていますので、在学中に諦める必要は

まったくないと考えて欲しいと思います。ただし、どのような道であっても、専門的な領域を学び会得していく作業にはそれなりの努力が必要で、早起きが苦手な人はこれを克服しなければなりません。理解するのに時間のかかる人は、他人よりも多くの時間、学習しなければなりません。いずれにしても、今の自分の置かれた状況を自分自身でしっかり理解・把握して毎日を過ごす必要があると思います。

(司会) 将来的な大学の方向性はどのようにお考えですか。

(新藤) 来年四月に看護学科(一学年八十名)と臨床工学科(同四十名)を設置する予定で準備をしており、既に看護学科の使用する校舎の建築に取り掛かっています。今後、総合的な医療技術者の養成を可能にする大学を目指して、学科も増やしていきたいと考えています。

(司会) 大学の責務として、地域貢献も重要だと思えますが。

(金子) 先日行った「公開講座(環境と放射線)」は、内容的に時機にかなったものだったということもあり、大勢の参加者に恵まれて成功裡に終了しました。本学が医療系の大学である強みを生かしたこうした講座をわかりやすく工夫して継続していく予定です。また、地域の皆さん

の健康管理や施設などの情報の紹介など、大学として何ができるかを検討しているところだ。

これは地域貢献とは言わないかもしれませんが、大学の学生が利用している通学路の清掃・整備などにも取り組むことにしています。

(司会) 最後に一言ずつお願いできますでしょうか。

(金子) 保護者の皆様から信頼いただける大学を教職員一丸となって作ってまいりますので、国家試験合格と就職のために御支援を賜りたいと思います。学業は容易いものではなく、大学の規則や指導に従ってはじめて目標が達成できるのだということをお話しいただけたらと思います。

(新藤) 日本医療科学大学で学んだ学生の面倒は最後まで見ていくというのが、本学の方針であり、昨年度も国家試験不合格者や留年生に対しても手厚く指導を行っています。最後まで諦めず、初期の目標を達成して欲しいと願っています。

(飯田) 本学の廊下や中庭などは本当にきれいに清掃され、細かな配慮が随所に見られます。少しでも良い環境で学園生活を楽しむ、学習して欲しいという担当者の思いによるものだと感じています。人間は環境の動物ですから、こうしたさりげない配慮が知らず知らずのうちに学生の皆

さんの素直な心を育み、無意識のうちには四年間の人間形成に少なからぬ影響を与えていると思います。



飯田学部長

(飯田) こうした環境で学んでいる本学の学生の皆さんには、医療職を目指して四年生大学で学ぶ機会を与えられていることについて、「自分は幸せな人間なのだ」と認識して欲しいです。感謝する気持ちをもって、学習する喜びを知って欲しいと思います。



新入職者の紹介



氏名：小山 英子
所属：作業療法学専攻
職位：教授



氏名：菊川 靖雄
所属：作業療法学専攻
職位：教授



氏名：山本 恭美
所属：診療放射線学科
職位：教授



氏名：浅岡 祐之
所属：理学療法学専攻
職位：助手



氏名：奥山 文男
所属：理学療法学専攻
職位：助教



氏名：大武 聖
所属：理学療法学専攻
職位：講師



氏名：桑山 潤
所属：診療放射線学科
職位：准教授

国家試験合格の厳しさを理解して 一日一日を大切にしよう

学校法人城西医療学園理事長 新藤宣夫

本学に在籍する学生諸君の大多数は、それぞれに将来の職業に対して大きな夢を持って入学し、そしてその実現のために日々努力を続けていることだと思えます。

既に発表している通り、本学一期生の卒業生のうち、国家試験合格者は全員就職が決定し、各地の医療施設で各人の夢の実現に向けて新たなスタートを切っています。

しかしながら、私は厳しいことも申し上げなければなりません。卒業生のうち国家試験合格者は学部全体で七十八・四％であり、一期生の入学者に対する卒業生の割合は七十八・二％でした。

この数字は、初期の目的を達成することの厳しさを如実に物語っています。

国家試験に「惜げ」や「おまけ」はありません。一点足りなくても不合格は不合格であり、翌年の試験日を持たなければならぬのです。

時々授業の様子を覗いた時、この辺の事情を本学の学生は本当に理解しているのかなと首をかしげる場面に出くわします。

入学した時の決意を思い出し、良き医療人になっていくためには、相当の覚悟が必要です。そのことを各人が理解して毎日の学習に臨んで欲しいと願うものです。



平成三十三年度 日本医療科学大学 学位記授与式

いそいそ
いそいそ

平成十九年に入学した日本医療科学大学一期生の学位記授与式(卒業式)が、三月十日(木)、川越プリンスホテルにおいて盛大に執り行われました。

記念すべき第一回目の卒業生は、診療放射線学科六十六名、リハビリテーション学科理学療法専攻四十七名、作業療法専攻四十七名の計百九十名でした。

各学科専攻の代表が学長から学位記を受け取った後、学長賞をはじめとする各賞が受賞者に手渡されました。(表彰者別掲)

学長、理事長、同窓会長の式辞、挨拶、祝辞の後、卒業生を代表して理学療法専攻の池上義明君が謝辞を述べ、最後に全員で日本医療科学大学学歌を斉唱して閉式となりました。

学長賞

診療放射線学科 山口 祐樹

リハビリテーション学科

理学療法専攻 大谷 明香

リハビリテーション学科

作業療法専攻 加藤まり絵

埼玉県放射線技師会会長賞

山川萌江美

埼玉県放射線技師会奨励賞

鳥越 亮大

日本理学療法士協会優秀賞

山中 徹也

埼玉県作業療法士会優秀賞

草刈 良典

日本リハビリテーション学校

協会優秀賞

高木 秀明

西宮 由貴



被災学生への援助

東日本大震災の被災調査を行う中で、本学においても複数の該当者がいることが判明し、詳しく被害状況を把握し、その状況に応じて授業料等の学費の減免が実施されました。

同時に本学教職員による義援金の配分も決定しました。

該当者は、Aランク(二年間の学費免除と義援金二十万円支給)が四名、Bランクのうち、五名が二年間の学費免除と義援金五万円支給、一名が二年間の学費免除、Cランク(前期の学費免除と義援金五万円支給)が一名の計十二名でした。

六月六日、新藤副学長から該当学生に対して、今回の支援の内容と激励の言葉が学生に伝えられました。



編集後記

東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。
本学においても、壁にひびが入ったり、機械が落下したりと少なからず被害をうけ、計画停電の実態と相まって、二週間学事日程を延期せざるを得ない事態となりました。
今後の節電対策の実施など、今まではなかった工夫と努力が必要であると同時に、一人一人の今までの電力やエネルギーに対する考え方の反省を求められる一年になりそうです。